

KENDA | メディカルキッズ



集まれ！キッズたち！病院のお仕事体験PJ 活動報告

プロジェクト参加学生；永島彩名、松浦優羽、藤山留華、川向稲沙、梅木透馬、青山鈴
山本颯太、朝山朋夏、本郷彩未、古藤桜弥、佐藤文華、柳田麗
教員；渡邊克俊、加藤典子、中谷陽子、松本祐香

目的

修学前の幼稚園児から小学生までの子どもたちが、大学生から聴診器の使い方を学び、病院でのお仕事体験を通して、看護職への興味・関心を持ってもらうこと。また、地元の大学で、医療や看護の基礎を学ぶことができる素晴らしい環境があることを知っていただくことも目的としている。地元で学び、地元就職することで若者の県外流出を防止できる。地元でやりがいのある仕事につき、元気で生きがいを感じる「島根創生計画」を実現する。

活動内容

＜呼吸音の聴診・お薬の処方＞

キッズは、白衣を着て患者に見立てた医療用シミュレータに聴診器をあてて、呼吸音や心音の異常を聞き分け、問診した症状と合わせてカルテに書いた。“チョコ”や“ラムネ菓子”をお薬に見立てて処方し、専用の器具を使って薬袋に入れた。薬袋に入れたお薬に見立てたお菓子と看護協会の「やっぱり看護のシゴト」の冊子を渡してPRした。

＜活動日時と場所＞

- ・1回目：6月8日（土）出雲キャンパスの大学祭「つわぶき祭」 約60名が体験
- ・2回目：10月26日（土）鳥巣地区の秋祭り「秋の鳥巣祭」 約50名が体験

【参加者の声】

ドキドキとかいろいろな音が聞こえて楽しかった。

【参加学生の学びと感想】

- ・呼吸音や心音を聞く機会がないので新鮮だったと思う。お薬の袋も可愛く仕上がって人気だった。予想以上に盛り上がって楽しかった。
- ・どうしたらキッズ達に楽しんで体験してもらえるか、医療職に興味を持ってもらえるか、子どもたちの立場になって考える機会になった。医療職に対して少しでも興味を持ってもらえる嬉しい。



人形に聴診器を当て、心音を聞く子どもたち—
出雲市西林木町、島根県立大出雲キャンパス

「出雲出雲市西林木町、病院の仕事体験するイベント「島根県立大出雲キャンパス」ト「メディカルキッズ」が、このほど、子どもたちがあつた。幼稚園児から小学生まで約60人が聴診器の使い方を学び、医療への関心を高めた。

医療職に興味を持ってもらおうと、学園祭「つわぶき祭」の実行委員会が初めて企画した。

子どもたちは体に合う白衣を身にまとい、患者に見立てた人形の胸に聴診器を当てた。心音や呼吸音は医療用シミュレーターを使い「ドキドキ」「ひゅーひゅー」といった音を聞いた。聞こえた音や症状をカルテに書き、薬の代わりにあめやラムネ菓子を選び処方箋袋に入れて持ち帰った。

鳥巣市のみなみかみ保育園園長、小山結彩ちゃん（5）は「ドキドキとかいろいろな音が聞こえて楽しかった」と喜んでた。

実行委の井川瑞穂さん（21）健康栄養学科3年「は「予想以上に盛り上がってよかった。子どもたちが少しでも興味を持ってもらえたらうれしい」と手応えを話した。（黒沢悠太）

山陰中央新報社 令和6年6月12日掲載

白衣姿ドキドキ医療体験



！注意！この袋の中身はお菓子です。

のどの奥 いた夫 様(さま)

1日 回 日分

朝(あさ)・昼(ひる)・夕(ゆう)・寝前(ねるまえ)
食前(しょくぜん)・食後(しょくご)・食間(しょっかん)

くすりを出した日(調剤日):2024年6月8日

キッズドクター
名前(なまえ)



島根県立大学 メディカルキッズ薬局
(しまねけんいつだいかく メディカルキッズやっきょく)

活動の成果

KENDA | メディカルキッズに参加

することで、病院のお仕事体験をすることができ、医療・看護に興味・関心を持ってもらうことができた。島根県にお住いの子どもたちや親御さんたちに、地元の大学で医療や看護を学ぶ素晴らしい環境があることを知っていただくことができた。

今後、若者が地元で学び、地元就職することで、若者の県外流出を防止できる。また、県内の医療従事者が増えることで、医療従事者の負担軽減効果も期待される。若者の県内就職者が増えることで島根が活気にあふれることが期待できる。

「島根創生計画」にマッチした地域貢献活動として、今後も継続していきたい。